

サビエル生誕五百年



巡礼の道

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

11

ピレネー山脈を越えて



ルルドの小聖堂でのミサ

のだ。
このス
テンドグ
ラスが文
字が読め
ない人の
ための聖
書の役割
を果たし
ていたこ
とは意外に知られてい
ない。

バスクのベレエ帽をかぶる

徳山カトリック教会のオレギ神父



れ、男性に限る。
アメリカなどで女性
の司祭も認めるべきだ
と主張する人もいる
が、バチカンがこれに
応じる気配は今のところ
ない。

ヨーロッパを旅する
と、町を中心に立派な
教会がある。現代はと
もかく、中世は政治、
芸術、教育などすべて
の面でキリスト教が中
心で、町も教会を中心
に発展したからだろ
う。

聖堂に入ると必ずと
言っているほど美しい
ステンドグラスが目につく。最も美しいのは
一九七九年に世界遺産
に登録されたフランス
のシャルトル大聖堂の
ステンドグラスと言わ
れるが、小規模な聖堂
でも結構、美しいもの
が多い。

徳山カトリック教会
のステンドグラスはド
イツ製で、かなりのも

大聖堂の中に小聖堂
があるのは、巡礼グル
ープがそれぞれミサを
たてるためと神父のた
めである。神への奉獻
生活を送る神父は一日
に一度、たとえ一人で
もミサをたてるように
なっているの、小聖
堂が必要なのである。
ミサをたてることで
できるのは神父だけ。
だから神父は司祭(祭
を司る人)とも言わ

神父と牧師、カトリ
ックとプロテスタント
の違いなど書けば長く
なるので省略し、聖地
ルルドに別れを告げ、
ピレネー山脈を越えて
スペインに向かう。
フランスとスペイン
の国境にあるピレネー
山脈は一番高い所で三
千三百餘り、富士
山よりやや低い。三月
末でも山頂付近はたく
さん雪が残っている。
サンティアゴへのフ
ランスからの巡礼者の
多くが歩いて越える標
高千六百餘りのソ

ポール峠をバスで越え
スペインに入る。スベ
イン北東部のバスク地
方である。
この地方は人種、言
語など独自の文化圏を
形成し、人々はスベ
インから分離独立を望ん
でいる。

第二次世界大戦後、
フランコ政権は、この
独立運動を厳しく弾圧
し、バスク語を使うこ
となどを禁止した。
これに対して、バス
ク祖国と自由”という
非合法組織が結成さ
れ、テロ活動が続いて
いた。

それが、私たちが巡
礼に出席する直前に和
平交渉が成立し、停戦
が実現した。そのニュ

ースが伝えられた翌
日、下松教会の早ミサ
担当だったオレギ神父
がうれしそうに私にそ
のことを話された。オ
レギ神父はこのスベ
イン・バスク出身なので
ある。
そして、日本にキリ
スト教を伝えたフラン
シスコ・サビエルや彼
と一緒にイエズス会と
いう修道会を創立した
イグナチオ・ロヨラも
オレギ神父と同じよう
にバスク出身のバスク
人なのである。
日本人にもなじみの
あるバスクのベレエ帽
を買い、はげた頭を隠
したいと考えた。
(前山口放送取締役ラ
ジオ局長)



ピレネー山脈

「奇跡の聖地ルルド」から